

グローバル化に向けて、教育環境づくりが進む

法政大学

1880年の創立以来、「自由と進歩」の学風に基づく教育を実践している法政大学。ここ10数年、新たな時代に対応した大学改革に積極的に取り組んできた。今年4月、テレビでも活躍している社会学部長だった田中優子氏が6大学初の女性総長に就任した。今後、どのような大学づくりを目指していくのか、田中新総長に話を聞いた。



PROFILE

田中 優子
1974年3月 法政大学文学部
日本文学科卒業
1991年4月 法政大学第一教養部教授。
2003年4月 法政大学社会学部教授。
2012年4月 法政大学社会学部長。
2014年4月より法政大学総長。
【受賞】2000年度 芸術選奨文部科学大臣賞(著書「江戸百夢」に於いて)。2005年度 紫綬褒章。
【主な著書】『江戸の想像力』1986筑摩書房 / 『江戸の恋』2002集英社 / 『クロノパノセーションの中の江戸』2012岩波書店
【主な社会活動】『週刊金曜日』編集委員、放送文化基金評議員、サンロー芸術財団理事その他。

新総長としてのビジョンをお聞かせください。

18歳人口が減少する中、大学は大きな転換期を迎えており、新たな時代に向けた改革が急務となっています。本学は99年から学部の増設が進み、6学部から15学部体制へと、大幅に学部数が増えました。地方では、地元の国立大学を志望する受験生が増えています。本学にはキャリアデザイン学部や現代福祉学部、スポーツ健康学部、グローバル教養学部など、東京の私立特有の学部があります。その強みを地方にもっと発信していかなければならないと感じています。その点を踏まえつつ、今後は教育内容の充実と力を注いでいきたいと思っています。大学で、特に学んでほしいのは、自分で表現することです。ゼミなどの少人数教育で自分の考えを説明したり、意見の異なる人と議論するなど、発信するために必要なスキルを磨いてほしいと思います。

一方、大教室での講義は受け身になりがちですが、発信するスキルを発揮していくためには講義で得られる知識は欠かせないものです。これをバランスよく履修できるように、大教室での講義を「Learning」でも受講可能に整備し、家で映像を見て学べるようにしたいと思っています。また、15年度から完全セメスター制になります。セメスター制を経て、更に1年を4期に分けるクォーター制に移行する予定です。

グローバル教育についてはいかがですか。

セメスター制からクォーター制に移行することが、グローバル教育の促進につながります。クォーター制を導入すると、留学生の受け入れや海外留学もしやすくなります。まずは、社会学部でクォーター制を積極的に導入していきます。また、GIS(グローバル教養学部)がある市ヶ谷キャンパスを中心に、英語で

実施される科目だけで卒業できるシステムを計画中です。多摩キャンパスでも英語で講義が受けられる4学部共通のグローバルコミュニケーションスティテュートプログラム(仮称)を導入する予定です。英語で学べる科目が整備されれば、留学生もより高度な授業が受けられます。今後は、留学生もゼミに所属できるようにしたいと思っています。グローバル化する社会で活躍するためには、世界情勢や社会の現状をきちんと把握しなければなりません。そういう知識を学生に身につけさせるのも大学の役割です。大学の過ごし方は就職にも関わってきますから、教員やキャリアセンターの職員がその点を早くから学生に伝えるようにしていきます。

法政大学は就職に強いことで知られています。どんな取り組みを行っているのですか。

1、2年生向けには、キャリアセンターのガイダンスや

ワークショップ、マナー講座、ゲストを招いたトークライブなど多彩な取り組みがあります。3年生から、就職ガイダンスや企業説明会を実施しています。ゼミでも、キャリアセンターの職員が就職について話す機会を設けており、学生の就職への意識を高めています。

このほか、企業の中堅や若手社員を招き、3、4年生に就職活動のレクチャーをしています。そこで、少し年上の先輩や卒業したばかりの先輩がどんな仕事をしているのか、肌で感じてもらいたいと考えています。また、就職活動を終えた4年生にも、下級生にアドバイスしてもらっています。

保護者には、入学式の直後に説明会を実施しています。就職に関する全体的な説明や公務員講座のガイダンスなどを通して、具体的に目標を持つことで就職活動に何が必要か逆算して考えてほしいとの考えがあります。そのためにも教職員の努力が必要です。これから、今後も各キャンパス・各学部でさまざまな取り組みを充実させていきます。

また、本学には全国にある卒業生組織の校友会や、在学生の保護者が主催する後援会があります。各地域の就職状況を良く知っている校友たちが、Uターン就職者や単身赴任で地方に行く人をサポートしています。これまでは各都市に分かれて支援活動を行っていましたが、今年4月から校友会を社団法人化します。より透明性の高い組織となつて校友会全体で支援していきたいと思っています。

高大連携についてはいかがですか。

大学教員が付属校で講義を行うなど、連携体制を整えています。高校1年の段階では、大学にはどんな学部があるか、何を勉強するのか分からない人が多いので、全てのキャンパスの全ての学部の説明を受け、大学での学びの意識を高めています。また高校3年生は大学の授業を受けて大学入学後に単位認定する仕組みもあります。クォーター制に移行すると、より弾力的に多彩な取り組みができるようになるのではないのでしょうか。

キャンパス整備の予定はありますか。

昔の法政大学を知る方は男性的なイメージが強いと思いますが、今では3分の1が女子学生です。過ごしやすく、快適なキャンパスづくりを心がけ、さまざまな施設・設備の整備を行ってききました。

今後も施設、設備の拡充を進め、市ヶ谷キャンパスの老朽化した古い校舎を建て替える予定です。付属校でも法政二中高の校舎の建て替えが始まっています。さらに、多摩キャンパスでも計画的に施設・設備の修繕を行います。それだけにとどまらず、最近では関西を中心に大学キャンパスの都心回帰の風潮が見られます。本学でもこの問題を直視していかなければならないと感じています。多摩キャンパスは設置されてから30年経ちますが、社会に出た後、もう一度大学で学びたいという社会人が増える中、都心のオフィスから少し通いづらというデメリットもあります。社会人の受け入れは社

法学部	法律学科/政治学科/国際政治学科
文学部	哲学科/日本文学科/英文学科/史学科/地理学科/心理学科
経営学部	経営学科/経営戦略学科/市場経営学科
国際文化学部	国際文化学科
人間環境学部	人間環境学科
キャリアデザイン学部	キャリアデザイン学科
デザイン工学部	建築学科/都市環境デザイン工学/システムデザイン学科
GIS(グローバル教養学部)	グローバル教養学科
経済学部	経済学科/国際経済学科/現代ビジネス学科
社会学部	社会政策科学科/社会学科/メディア社会学科
現代福祉学部	福祉コミュニティ学科/臨床心理学科
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科
情報科学部	コンピュータ科学科/デジタルメディア学科
理工学部	機械工学科(機械工学専修/航空操縦学専修)/電気電子工学科/応用情報工学科/経営システム工学科/創生科学科
生命科学部	生命機能科学科/環境応用化学科/応用植物科学科



▲市ヶ谷キャンパス



▲多摩キャンパス



▲小金井キャンパス